

専門・認定看護師とチーム医療の話

お気づきかもしれませんが、当院にはあちこちに専門・認定看護師が配置されています。

感染管理や手術看護、糖尿病看護などがあり、私たちのがん治療や緩和の領域では、がん化学療法看護認定看護師、皮膚・排泄認定看護師、がん疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん看護専門看護師のかかわりが深いです。それぞれの専門領域を特別に勉強した専門家ということです。

今日は私の考えで決めつけてしまいますが、彼らの主な役割は2つです。すなわち、現場で働く一般の看護師に自らの背中を見せてその領域の手本になること、そして、現場に向けて教育を施すことでみんなに自信をつけていくことです。

さらにそうした活動のできる人材というのは、チーム医療の要(かなめ)の役割も担うこととなります。チーム医療とは、たくさんの異なる職種をある目的のために束ねて、フラットな関係を作りながら患者さんに対して結果を出していくというものです。かつては医師が常にリーダーでなくてはならないという期待や自負がありました。

しかし、ときに医師の存在は権威的になりがちでフラットさが保てず、多職種の創造的な活躍を妨げることにもなりかねません。そんな時に、医師の仕事も理解しながら、同時に患者さんの近くに寄り添うことができるという点で看護師の存在が際立ちます。中でもそのチームの関わる領域に詳しい専門・認定看護師は頼りになる存在となるのです。

一般に、お仕事はジェネラリストとスペシャリストの協働やバランスが大切です。当院にもう少し人手の余裕があれば、彼らが現場にとらわれず、より裁量をもって側面支援ができるようになり、みんなが生き生きした病院になれると思います。新病院向けての私の期待です。